

これまでのあらすじ

(仮)防災浜リュック事業

課題

- ・川下自治会からの要望 防災リュックの全戸配布
- ・全戸配布となれば基金事業に当てはまるが自己負担はどうする
- ・非常食等は避難所にあるうえ、更新費用の負担が必要
- ・避難が難しい人を共助や支所の力で助ける
- ・避難するとき、避難した時の防災備品ではどうか
- ・持ち歩きやすいものが良いのでは
- ・防災意識を高める目的も
- ・高齢者は「避難するときどうする」という不安感を抱えている

課題解決のために必要なこと(要素)

- ・防災に備える意識と助け合いの意識を高める目的
- ・最低限必要なグッズは何か
- ・サイズとしてはさっと持ち歩ける、両手をふさがらない物
- ・通帳等貴重品程度も入ると便利
- ・要支援者名簿もあるが、実際は地域内でほとんど把握できている
- ・いざという時にしっかり役立つ物を厳選して詰め合わせ

具体的な手法(事務局提案)

令和4年度

- ・自治会連合会において、秋の会議の時点で各单位自治会に自己負担での購入等について提案し、来年4月の総会で協議していただく(実施主体、配布範囲・対象者、金額等)
- ・避難する時に役立つ携行品(例:ヘッドライト、ラジオ、十徳ナイフ、携帯用 簡易トイレ、軍手、防寒シート等)をパッケージ

令和5年度以降

- ・約700世帯×10,000円×3/4≒525万円(基金事業)
自己負担額2,500円程度で調整
- ・川下地区におけるアンケート調査においては、自己負担があってもそ
ろえてほしいとの意見あり
- ・各地区の避難訓練時に活用することも念頭に内容を検討
- ・「浜マーク」プリント、反射材の貼付などの工夫

「高齢者に優しいまちづくり」 防災リュック事業目的と浜益区の基本情報

課題と目的

- ・防災に備える意識と助け合いの意識を高める
- ・避難が難しい方を共助や支所の力を合わせて助ける→それまで持ちこたえられることが必要
- ・避難所まで避難するまでに最低限必要な物
- ・さっと持ち歩いて両手をふさがず、貴重品等も入ると便利
- ・「避難するときどうすればいいか」という不安の軽減
- ・更新が必要等ランニングコストがかからない物が良い

基本情報

・浜益区の家帯構成(R5. 4. 1現在)

	合計	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人
家帯数	692	419	188	47	25	7	4	2
家帯数 構成比	100.00%	60.55%	27.17%	6.79%	3.61%	1.01%	0.58%	0.29%

- ・総事業費 最大700家帯×10,000円=7,000,000円(税込み)を上限とする。
- ・1家帯当たり1個分を補助対象として、7,000,000円×3/4=5,250,000円補助。
- ・自己負担額は、2,500円/1個と想定。
- ・事業実施主体は浜益区自治会連合会とするため、自治会加入者が補助対象者となる。
- ・家帯構成のうち1人家帯と2人家帯が約90%を占める。

浜リュック内容(協議会事務局案)

防災用品リスト (1万円の案)

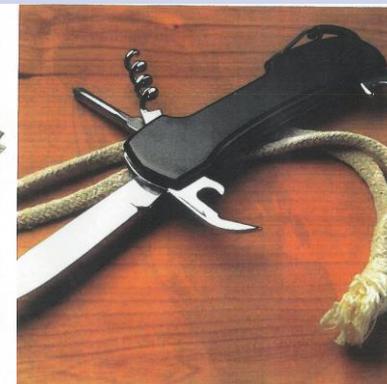
品名	数量	説明
①リュック (浜マーク入り)	1個	反射材付きのリュック。レインカバー付き。浜マークあり。
②ソーラーランタン	1個	軽量で、太陽光充電で24時間点灯。歩行時にリュックにぶら下げられる。
③ヘッドライト (電池式)	1個	夜間避難時に両手をふさぐことなく周囲を照らすことができる。
④防災ラジオ (ランタン付き、充電式)	1個	災害情報の収集、音で自分の位置を知らせる、自宅、避難所での照明等。
⑤アルミ防寒シート	2個	夜間等の防寒対策。低体温症の防止。
⑥多機能ナイフ	1個	物を切る、削る、缶詰の開封等に活用
⑦レインコート	2個	雨天時に衣服が濡れることを防ぐ。



重量	約 125g
LED	白LED 10個
点灯モード	4モード: 連続灯・点滅灯・点滅灯・点滅
バッテリー	リチウムイオン電池内蔵
充電	USB充電ケーブルで充電
点灯時間目安	満充電で最大24時間点灯
防水	IP67
その他	充電残量表示LED付



防災ラジオ (ソーラー充電式)



大人用レインコートL
29-661 12x20x1 中国

大人用レインコートM
29-662 12x24x1 中国

予算要求から事業実施までに整理すべきこと

求められる「浜リュック」とは？

- ・各自治会の防災体制によっても希望が違うこともある。
- ・大切なのは、共通した汎用性、必要性。
- ・区民が自己負担をして購入する物だから
→“必要なもの”の区民(自治会)の意見を反映したい。
- ・予算規模に合わせて調整する。

配布方法等は？

- ・予算を要求して、予算が付いたら発注へ。
- ・回覧板で購入希望を取り各自治会で取りまとめ？
- ・1世帯1個が補助対象、2個目以降は実費負担？
- ・集金方法は班単位で可能と想像できるが、配布方法は？(100世帯を超える自治会もある)

今後の流れ

5月

- ・予算要求
- ・事業実施主体は自治会連合会
- ・更新の必要のないもの、避難所までたどり着くために必要なものを整備する目的

6月

- ・補正予算確定
- ・各自治会においてリュックの中身について最終確認
- ・希望と予算を照らし合わせて、中身を決定
- ・交付要綱等整備(事務局)
- ・配布方法の検討

7月

- ・最終の見積もりをもらう
- ・補助事業準備
- ・購入希望調査(回覧で行う。自治会取りまとめ)
- ・発注戸数を確定して発注(納期の確定)

8月

- ・補助金概算払い手続き
- ・各自治会にて集金
- ・納品完了後、配布準備
- ・配布時期、場所の確定

9月以降

- ・自治会連合会から業者へお支払い
- ・各地区での避難訓練に活用
- ・もしもに備えて各自で物を詰める。
- ・各地区での活用方法の確認等